

(様式2)

令和7年度 県立高校指定校事業（令和7年度指定）単年度計画書

学 校 名	横浜氷取沢高等学校 (全・定・通)	校 長 名	坪内 幸子
指 定 名	グローバル教育研究推進校	年 度	令和7年度
研究主題	グローバル社会の中で主体的に考え、協働する中で、挑戦し続けることができる人材の育成		
本年度の研究内容	<p>(1) 本年度の目標</p> <p>グローバル社会における主体性、協働、挑戦をテーマに、以下の通りの教育活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">・国際的な視野を持ち、主体的に考え、探究することができる力を身につける。・自らの課題に挑戦し、自己を伸ばし続ける姿勢をもつ力を身につける。・多様な価値観を尊重し、他者と協働して問題解決できる力を身につける。 <p>(2) 目標実現のための具体的な手立て</p> <p>①全教科における教科横断的な取組</p> <ul style="list-style-type: none">・校内授業研究テーマ「多様な文化や価値観の存在に気づき、相互理解の大切さを学び、他者への関心や共感力を育てる指導の研究」を実現するための手立てを科目ごとに設定し、実践・振り返りを行う。・全教科で公開研究授業を実施し、設定した手立てが有効であったかどうか協議する。・年間の取り組みの中で、教科横断的な視点を持った授業を実践する。 <p>②英語教育における取組</p> <ul style="list-style-type: none">・学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」の英語4技能5領域をバランスよく向上させるためのカリキュラムの編成とその指導と評価の計画。・プレゼンテーションの指導と校内プレゼンテーションコンテストの実施を通じた論理的思考力とプレゼンテーションスキルの育成。・前期と後期に実施する英語学習に関する意識調査アンケートによる生徒の意識の変化の分析を通じた指導の振り返りと改善。・GTEC アセスメント（12月）、実用英語技能検定（年3回）の校内実施と研究を行う。GTEC アセスメントについてはその結果を前年度の同一学年との比較、2年生については前年度からのスコアの比較を行い、それぞれの要因となる要素を把握し、以降の指導に生かしていく。 <p>③国際理解教育の多角的な取組</p> <ul style="list-style-type: none">・ニュージーランド訪問交流、韓国訪問・受入交流、オーストラリア受入交流の実施。・総合的な探究の時間において、探究活動のプロセスについて理解・整理できるように、課題解決の意義と方法について学ぶ授業に注力する。また、より幅広い知識・視野とキャリア意識を持って探究テーマを見出せるように、協働に関する実践的プログラムや国際理解に向けた講演の実施、キャリアパスポートの活用等について、より有効的な実践方法を研究する。・諸外国（ニュージーランド、韓国、オーストラリア、フィリピン等）の高校生世代とのオンライン交流 <p>④外部教育機関との連携等による教育機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none">・高大連携等を活用した外部人材による講演会や、外部団体での体験・実習等の実施。 <p>(3) 成果の検証方法及び取組指標</p> <p>◆検証方法</p> <p>①年度ごとに設定する「グローバル人材に求められる資質・能力」の育成に向けた「校内研究授業テーマ」に基づき、全教科でそれぞれの教科特性を踏まえた指導と評価の研究を行うことができたか。</p> <p>②「魅力と特色アンケート」のうち、「主体的な学習活動を通じて、思考力・判断力・表現力等を高めることができたと思う高校生の割合」が85%以上となることを維持することができたか。</p>		

③「生徒による授業評価」のうち、次の質問項目において、肯定的な回答の割合が 85%以上となることを維持することができたか。

(1)授業の在り方について、「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。」の質問項目

(2)学習の状況について「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。」の質問項目

④(1)GTEC アセスメント

- ・CEFR A2 レベル以上相当を達成する生徒の割合は指定期間内において向上し続けているか。
- ・各学年の生徒のスコアはすべての技能において前年度よりも向上しているか。

(2)実用英語技能検定

- ・上位の級の取得に向けて前向きな生徒の数は増えているか。
- ・目標とする級の取得に向けて英語学習に力を入れる生徒の数は増えているか。

(参考として校内受験の受験者数・合格者数を集計する)

(3) 英語学習に関する意識調査アンケート

英語学習に関する意識調査アンケートの「英語を人前で話すことについてどう思いますか」、「英語を書くことについてどう思いますか」の項目において、肯定的な回答の割合が増えたか(その要因の分析も併せて行う)。

◆取組指標

授業評価アンケート

授業の在り方について、「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。」			
回答	令和7年度 (目標)	令和8年度	令和9年度
4. かなり当てはまる	50%	%	%
3. ほぼ当てはまる	35%	%	%
2. あまりあてはまらない	15%	%	%
1. ほとんどあてはまらない	0%	%	%

学習の状況について「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。」			
回答	令和7年度 (目標)	令和8年度	令和9年度
4. かなり当てはまる	50%	%	%
3. ほぼ当てはまる	35%	%	%
2. あまりあてはまらない	15%	%	%
1. ほとんどあてはまらない	0%	%	%

魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート

「主体的な学習活動を通じて、思考力・判断力・表現力等を高めることができたと思う高校生の割合」			
回答	令和7年度 (目標)	令和8年度	令和9年度
4. そう思う	50%	%	%
3. どちらかといえばそう思う	35%	%	%
2. どちらかといえば満足していない	15%	%	%
1. ほとんどあてはまらない	0 %	%	%

その他
特記事項